

東北医科薬科大学 若林病院 連携だより

病院長就任ご挨拶

あか い ひろあき
病院長 赤井 裕輝



阿部達也前病院長の後任として病院長を拝命いたしました、よろしくお願い申し上げます。

自己紹介させていただきますと、生まれは秋田市です。幼児期は仙台連坊小路で育ちました。日本電信電話公社(現 NTT)に勤務する父の転勤で、幼稚園と小学校は東京都世田谷区でした。その後、北上が始まり福島県いわき市の平一中、岩手県の盛岡一高を経て青森県の弘前大学を卒業。初期研修後、後藤由夫教授率いる東北大学第三内科に入局し、豊田隆謙先生(現名誉教授)にご指導頂きました。この間、愛知県岡崎市の国立生理学研究所に内地留学し、矢内原昇教授の元で消化管ホルモン・インクレチンを勉強しました。大学院修了後、

長町にあった宮城健康保険病院(現 JCHO 仙台南病院)、東北大学病院第三内科に勤務(佐藤讓名誉院長にもご指導頂きました)後、米国 NIH および同じキャンパス内の FDA に2年半留学、日本ではまだ草創期の分子生物学を学び、サイトカインによる遺伝子発現機構を研究しました。帰国後、東北大学第三内科助手を務めた後、仙台厚生病院に新たに糖尿病センターを立ち上げ13年間、さらに恩師豊田隆謙先生が病院長の東北労災病院に異動、9年間勤務し副院長を務めました。糖尿病診療に22年間従事したところで、37年ぶりの医学部が新設された東北薬科大学に病院教授として着任後、内科学第二(糖尿病代謝内科)教室の教授に就任しました。大学教員としては異色の長い診療経験をもつ臨床医・糖尿病専門医です。

当院は、東北医科薬科大学病院(福室本院)の機能が充足するまで、縁の下の力持ちを担ってきました。福室本院が立派に成長した今、若林病院は地域医療に貢献する基幹病院としての機能充実に努め、エネルギーを蓄えて参ります。当院は医学生・薬学生の教育を担う活気ある医学部附属病院であり、しかも若林区唯一の総合病院です。地域の先生方との双方向の病診連携の役割をしっかりと果たせるよう努めて参りますので、ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

病院理念

人権と生命の尊厳を守り、心のこもった
温かい良質な医療の提供に努めます。

～目次～

- 病院長就任ご挨拶……………P.1
- 病院長退任のご挨拶・退任医師よりご挨拶……………P.2
- 院内連携リレー 3階病棟・着任医師のご案内……………P.3
- 腎臓病療養指導士紹介・Topics ……………P.4

病院長退任のご挨拶

前病院長／呼吸器内科 阿部 達也



私は 2022 年 3 月で病院長を退任し、赤井裕輝新病院長と交代しました。4 年間の在任中、連携医療機関の皆様には大変お世話になりました。厚く御礼申し上げます。前病院長の佐藤譲先生から私がその任を引き継ぎましたのは、NTT 東日本東北病院が東北医科薬科大学若林病院となって 2 年が経過した時期でした。当時医学部生は 3 学年のみ在籍しており、本院、若林病院ともに附属病院としての本格的な体制の確立はこれからという時期でした。

この時の具体的な直近の目標は医学部一期生が卒業する 4 年後（本年）の医学部の完成でした。大学のミッションを具体化するための方策の中でも附属病院本院の機能拡大は急務でした。

そのため 2019 年 4 月に若林病院から本院へ 88 床の病床移動が行われ、その後回復期リハビリ病床の新設、いくつかの診療科の開設や休止、および名取守病院の閉院などが続きました。また、本院の COVID-19 診療支援のため、一時的に若林病院の病棟の一部を閉鎖してスタッフを本院に送りました。これらは当院の診療体制に大きな影響を及ぼしました。縮小した規模で従来の急性期医療に加えて慢性期の診療も担う状況にあり、ご要望にお応えできなかった部分は今後の課題と考えます。

この 3 月に医学部の第一期生が卒業し、東北医科薬科大学医学部が完成しました。今後若林病院が附属病院の一員として発展していくためには皆様のご理解が不可欠です。これまでのご厚情に感謝し、更なるご協力をお願いし、退任のご挨拶といたします。

最後に、激変する病院環境の中で団結して若林病院の機能の維持、向上に努めていただきました職員の皆さん全員に感謝の意を表します。

退任医師よりご挨拶

内科 津守 孝彦（2022 年 3 月末日付）

2020 年 4 月から 2 年間、内科で勤務させていただきました。

地域の先生方から多くの患者様をご紹介いただき、また医局の先生方のご指導もあり大変充実した日々を送ることができました。

若林病院での経験を生かして、今後の診療に役立てていきたいと思いますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



眼科 浅野 良視（2022 年 3 月末日付）

2021 年 4 月から 2022 年 3 月の 1 年間、眼科科長として勤務させていただきました。地域の先生方、スタッフの皆様に支えられ、外来から手術までを無事に全うすることができました、心より感謝申し上げます。また、4 月より眼科の非常勤化（外来のみ継続）となり、皆様にはご不便をお掛けいたしますが、今後ともよろしくお願いいたします。

私は 4 月からは栗原地域にて診療を続けていく予定です。ご縁のある方は患者様のご紹介など今後ともお世話になれば幸いです。



産婦人科 佐藤 直人（2022 年 4 月末日付）

2021 年 4 月より約 1 年間、産婦人科で勤務させていただきました。若林病院での経験は、産婦人科医としてとても大きな経験となりました。至らぬ点もあったかと存じますが、近隣の諸先生方には大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。これからも一人一人の患者さんにとって更により良い医療を提供できるよう、引き続き研鑽を積んでいきたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

★院内連携リレー★ - 3階病棟 -

当院の部署紹介をリレー形式でご紹介していきます！第3回は3階病棟です！



3階病棟は47床の混合病棟で、外科・婦人科・耳鼻科・整形外科・内科（主に消化器疾患、自己免疫疾患等）・総合診療科の患者様が入院されています。柔らかい色を基調とした内装の女性専用病床もあり、婦人科の患者様はもちろん、女性の患者様にご好評頂いています。複数の診療科に携わり、専門性のある幅広い知識や技術が必要なため、医師や薬剤師等に協力してもらい勉強会を行うなど安全な看護が提供できるよう努めております。緊急入院はもちろん、手術や検査を目的とした短期間の予定入院も多く、不安を持って入院される患者様やご家族に安心して過ごしていただけるよう丁寧な説明と傾聴を心がけています。

周術期の患者様や免疫力の低下した患者様が多く入院していますので、感染対策には特に留意しております。新型コロナウイルス感染予防のため入院時スクリーニング検査をしていますが、発熱など感染症状が疑われる患者様には個室を利用させていただくなどしています。また、感染対策のため面会禁止になっていますが、タブレット面会などでご家族との交流を図っています。ご高齢の患者様にはタブレット面会に抵抗感を示される方もいらっしゃいますが、画面から家族の顔が見え、声が聞こえると患者様が笑顔になり、私たちもたいへん嬉しく思っております。

これからも安心して入院生活を送っていただけるようスタッフ一同努めてまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



女性専用病床



※写真撮影時のみマスクを外しております

着任医師のご案内

❁転入❁東北医科薬科大学病院より（2022年4月1日より）

総合診療科	住友 和弘	医師
総合診療科	大泉 智哉	医師
総合診療科	片山 智文	医師
消化器内科	金 諒	医師

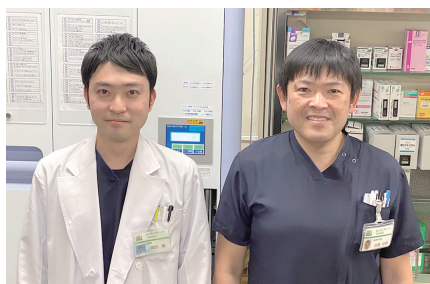
❁着任❁

外科	佐藤 馨	医師（2022年4月1日付）
産婦人科	佐藤 綾香	医師（2022年5月1日付）

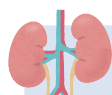


6名の先生をお迎えいたしました。これからどうぞよろしくお願いいたします。

腎臓病療養指導士紹介



当院では腎臓内科 安藤医師のもと、ひとりでも多くの方が透析を回避できるように、CKD（慢性腎臓病）対策強化に努めております。2018年に制度化された「腎臓病療養指導士」の資格を薬剤師 佐藤と岡田の2名が有しており、当院での活動をご紹介します。

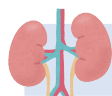


腎臓病療養指導士とは

「腎臓病療養指導士」は2018年より、慢性腎臓病（CKD：Chronic Kidney Disease）における保存期の療養指導を現場に浸透させることを目的に設立された制度です。

対 象：看護師、管理栄養士、薬剤師の3職種となっており、各職種の専門知識を必要とする認定・専門制度とは異なり、CKDの療養指導に関する職種横断的な基本知識を習得することで資格が与えられます。

役 割：保存期CKD患者様に対して、チーム医療と医療連携により、それぞれの医療現場において質の高いCKD療養指導を提供することです。



当院での活動内容

当院では、病棟で入院中のCKD患者様に対する療養指導を行っています。その主な内容は、服薬指導であり、患者様の生活リズムに合わせた服薬方法を提案するなど退院後も継続して適切な服薬が出来るようサポートしています。その背景としてCKD患者様に対して、高血圧、貧血、カリウム・リン・カルシウム管理、尿毒症などの症状に応じて多数の薬剤が処方されるため、必要性、薬効、副作用等を十分に理解してもらうことがアドヒアランス向上につながると考えています。また、CKDによる諸症状は、生活習慣や食事などによる影響も大きいので、管理栄養士や看護師と連携しながら療養指導に取り組んでいます。

患者様に対する活動だけでなく、他職種に対するCKDにおける薬物療法の教育も行っています。最近では、CKDに対して使用される新しい薬や、腎臓の機能が低下していると副作用が起きやすくなる薬剤、腎臓に障害を引き起こす薬剤について看護師を対象に勉強会を行いました。

今後も、CKDにおける薬物療法についての教育や、より質の高い療養指導を行うことを目標に活動していきたいと考えています。



Topics



東北楽天ゴールデンイーグルス様より「楽天イーグルスオリジナルデザイン車椅子」1台を寄贈いただきました。

“イーグルスホームランチャリティー supported by SMBC 日興証券”の活動において、2021シーズン中に楽天生命パーク宮城で開催された、一軍公式戦全72試合中33試合で楽天イーグルスの選手がホームランを記録し、33台のオリジナルデザイン車椅子を東北各地の施設に寄贈されるという企画で、その内の1台を当院にお贈りいただきました。

寄贈いただきました車椅子は、大切に使用させていただきます。

東北医科薬科大学 若林病院
患者総合支援センター

〒984-8560 仙台市若林区大和町2-29-1
TEL 022-236-5899 FAX 022-236-5920